



ASTENA Minerva

アステナミネルヴァ株式会社
珠州市上戸町北方4字177番地3

アステナミネルヴァ(珠州市)は、医薬品を製造、販売するアステナグループで地域資源を発掘し、社会課題の解決につながる新規事業を創出する「ソーシャルインパクト戦略」を担う会社です。これまでの取り組みの成果などについて、同社の清水雅楽乃社長と同社が拠点構える珠州市の泉谷満寿裕市長が語り合いました。



飯田港のそばに建つラボルトすず(珠州市飯田町)で行われた対談の様子

素晴らしい自然環境に 引かれて本社機能移転

—アステナグループは2021年6月、本社機能の一部を東京から珠州市に移転しました。その経緯を教えてください。

清水 アステナグループでは医薬品や化学品、健康食品、化粧品などの製造と卸販売を手がけています。珠州市とは、移転時にアステナホールディングス(東京)の社長を務めていた岩城慶太郎(現取締役)が旅行で能登を訪れたことをきっかけに接点が生れました。

珠州市は素晴らしい自然環境や伝統文化がある。一方、半島の先端に立地し、過疎や高齢化といった社会課題が顕著です。私たちは1914年の創業以来、社会貢献を重視しているこ

ともあり、珠州市が抱える社会課題の解決に向け、地に足を付けた活動をできればと移転に踏み切りました。

泉谷 東証プライム市場上場企業が進出してくるのですから、珠州市にとっては夢のような話です。

市としては、最大の課題である人口減少に何とか歯止めをかけたこと、大学と連携した人材育成事業やSDGsの推進、奥能登国際芸術祭の開催などを継続的に進めており、アステナグループの拠点ができることで、新たな動きの起点になってくれるのではと期待しました。

珠洲の地域資源を生かした ヘルスケアブランドが誕生

半島の先端のDNAが 商品開発を加速させる

—清水社長は先ほど、継承という言葉を使いました。アステナミネルヴァも継承者

の1主体として取り組む思いでしょうか。

清水 私たちは奥能登の農業や文化が継承されることを目指し、地域資源を活用したヘルスケアブランド「NAIA(ナイア)」を立ち上げます。アステナグループは1914年の創業以来、100年以上、ヘルスケアの領域で事業を展開してきました。その知見を生かし、農業×ヘルスケアで新しい価値を奥能登から生み出す、それがNAIAのコンセプトで、第一段は洗顔フォーム、化粧品、美容液です。

泉谷 どんな地域資源を使っているのですか。

清水 農業から出てくる米ぬかや職人技から生まれる酒

み克服するようなビジネスを創出できれば世界中どこでも通用するとの考えには、大いに感銘を受けました。

地域の課題に耳を傾け 共に解決策を考え行動

—移転後はどのようなことに取り組んだのでしょうか。

清水 東京で展開している事業をそのまま珠州市に持ち

に掲げ、地域の皆さんに課題や困りごとを伺いながら、一緒に解決策を考え、実行してきました。例えば、農業を使わないお米作りもその一つです。漢方のキノコやハーブを育てたり、日本酒を造ったりもしました。

私たちが栽培したハーブは、ラフマという種類で、日本では睡眠サプリメントの原料として多く使われており、その全て

を中国から輸入する薬でまかなっています。珠州市でラフマを栽培したところ、生育環境が合いう、まく育ちました。日本で初めて商用栽培に成功し、「能登ラフマ茶」として販売しています。非常に好評で、栽培面積の拡大を進めています。

泉谷 ビジネスとしてはまだ試行錯誤の段階かと思いましたが、飯田高校の生徒に起業に

粕菊炭のパウダーを配合しています。本来であれば捨てられるものから有効成分を抽出して商品に仕上げ、これまでと違う形で消費してもらうことで、一次産業や伝統文化を次世代につないでいきたいと考えています。珠州市にいと、農業や伝統文化は、奥能登の景観や生態系と密接な関係にあるのだと実感します。一次産業を守

らないと美しい能登は守れないと考えています。

泉谷 震災の影響によって、まだ営業を再開できない事業所もたくさんあります。珠州市の素材を生かした商品もまだまだ少ない状況です。いろんな方にご利用いただき、市の知名度やイメージ、魅力の向上につながれば、これほどうれしいことはないと思います。

清水 珪藻土や塩、海洋深層水などもこうした商品に活用できないか、研究を進めています。例えば珪藻土は水分をよく吸ってくれるので、フェイスパックの材料に使えるかもしれません。

泉谷 珠州市は珪藻土の埋蔵量が全国一を誇ります。用途は七輪やコンロが主ですが、より付加価値の高い活用が見

珠州市長

泉谷 満寿裕氏

いずみやますひろ 1964年生まれ、珠州市出身。早稲田大学政治経済学部卒業。野村證券で勤務した後、泉谷菓子舗代表、珠洲生必代表取締役を経て、2006年6月に珠州市長に初当選。現在5期目を務める。

ついで学びインターンシップの場を設けてくれたことも、これからの地域の可能性を広げる取り組みだと思っています。珠洲産の規格外カボチャの種から抽出したオイルの販売など、高校生のアイデアの一部はビジネス化に向けて動き出しています。

清水 市内の高校生の多くは大学進学と同時に県外に出て、そのまま就職してしまいがちです。地元でやりたい仕事があれば、自分で起業するの

人々が作り上げてきた伝統 思いがあればいつかは復興

—昨年は1月に能登半島地震、9月には奥能登豪雨と相次いで災害に見舞われました。

泉谷 道路や上下水道、護岸や港と珠州市は特に震災で大きな被害がありました。加えて住宅の被害が極めて大きく、約3分の2が半壊以上でした。外浦では海岸が隆起し、見附島も大きく崩れました。珠州市の魅力である美しく豊かな里山里海の風景がすっかり変わってしまっています。清水さんはどのように感じますか。

清水 もちろんショックで端のDNAにあるのではないのでしょうか。海に向けて開けていますから、来る者拒まずの精神が根付いているのだと思います。

つかうのではと期待しています。海藻なんかも可能性を秘めているのではないのでしょうか。

清水 そうですね。こうした商品開発においても、地域の皆さんが私たちを受け入れてくれ、積極的に協力してくれるので、事業化がスピーディーに進んでいます。珠州市に来て本当に良かったと思っています。

泉谷 その理由は半島の先端のDNAにあるのではないのでしょうか。海に向けて開けていますから、来る者拒まずの精神が根付いているのだと思います。

清水 これからも皆さんの協力を得ながら、スキンケアにとどまらず、ヘアケアや頭皮ケア、お茶や食品など、商品ラインアップをどんどん増やしていきたいと思っています。これらの商品を通じて、多くの人が珠州市に興味を持ち、足を運んでくれるといいですね。

泉谷 行政としてはまず、市内各地の再生をしっかりと成し遂げ、その上で新たな魅力づくりにも取り組むたいと考えています。例えば、本月初とな

も一つの選択肢だと伝えるのが狙いです。

泉谷 花王やNTT西日本など、アステナグループさんと交流のある名だたる企業となりがり生まれた点も大変うれしく思っています。

清水 商品を一緒に企画したり、珠州市を研修の場にしてもらったりしています。都会とは違う環境で物事を考えることが、いい刺激になると考えています。

泉谷 同感です。地震や豪雨で多くのものが壊れてしまいましたが、伝統や文化、人々の思いまでは決して壊れていません。本質を大事にしながら、これからの時代に合わせ、失ったものを再構築、再生していくことが重要だと考えています。



珠洲の地域資源を活用したヘルスケアブランド「NAIA」の第一弾商品

るトキの放鳥は復興の大きなシンボルとなるでしょう。引退した競走馬やアートの活用もその一つです。先駆的なアイデアや技術も取り入れ、より魅力ある最先端の復興を成し遂げていきたいと思っています。アステナグループさんにも引き続きご協力をお願いします。

清水 こちらこそよろしくお願いたします。

アステナミネルヴァ株式会社 代表取締役社長
アステナホールディングス株式会社 常務執行役員

清水 雅楽乃氏

しみずあつたの 1981年生まれ、大阪府出身。一橋大学経済学部卒業。アクセンチュアに勤務した後、コンサルティング会社で業務改革、M&Aなどに携わる。2021年アステナホールディングス入社。同年12月から現職。